

社会的ひきこもり支援者全国実践交流会 in 大阪に参加して

私は15日(土) 16日(日)に開催された石記大会(第9回)に初参加した私の感想です。(今後、「全国若者支援連絡会議」に名称が変更しました)
 ○閉じこもり、ひきこもり当事者、その家族の声がもつと活動に反映される仕組みを創ること、大支である。自分である程度動け、支援窓口まで辿りつける人は何とかなる。一番の問題は、本当に動けないで悩み、苦しんでいる当事者・家族に支援の手が差し伸べられ、常に何に困っているのか、何が問題なのか、など本質的なことを見つけて行くことが大事である事。

英国メリデン版訪問家庭支援技術研修に参加して

3月7日金曜日に津田塾大学千駄ヶ谷キャンパスにて全国精神障害者家族連合会「みんなねっと」主催の英国メリデン版訪問家族支援技術研修に参加しました。
 青森から新幹線で前日から入ったが、青森よりも寒く感じられた。参加者は平日にもかかわらずたくさんの方が来ており、席を見渡すと、医療・福祉関係者が半数で当事者・家族も半数いたように思いました。英国の精神保健福祉分野における介護者ケアラー支援の概要について講演があり、その中で日本は英国に比べ、患者一人あたりの専門スタッフの人員がとて不足していること、今でも差別・偏見・人権侵害といえる状況が続いていると話し、その後英国から来た3人の講師の講演が始まりました。
 講演を聞いて感じたことは、「家族支援とは何か?」です。英国では、親・当事者の両輪があつて、家族支援と言えと話しておられました。親だけが当事者だけが先行するのではなく、親も当事者も安心して暮らしていくためにどうしたらよいかを考えながら、親の心的負担を少しでも軽くするためにケアラーの存在がとて重要であることがとて心に残りました。(文責:池田・下山)

やってみたいと考えた。○まずは、このことを仲間と共有、意見交換して、出来ることから1つ1つ丁寧かつ着実にやっていきたい。自分の役割は、当事者とあまり変わりは無いが、今までのNPOセクターでの活動で培った知識・経験を生かして、大それたことが当事者と社会をつないでいくことだと感じた2日間だった。(KHJ本部・大橋史信)

「親の10ステップ」「若者の10ステップ」を見守る 中垣内 正和

ひきこもりは雲をつかむよう何処から手をつけたらよいか分からないというのが誰にとつても最初の印象です。そこで回復の過程を、AA(断酒グループ)の12ステップをモデルに2004年頃から作り始めました。講演で「福岡楠の会」を訪れた際に、その初期のステップが張り出してあり、吉村さんに「これを使って頑張っています」と言われてとて嬉しかった記憶があります。その後親と若者2つのステップに分けて、KHJのHPに載せていただきましたが、2013年和歌山県桂木町講演に際して「親の10ステップ」を見直したところ、2か所の修正が必要となりました。その間に対応が大きく進展してました。年末に、高槻市や沖繩講演に際して「若者の10ステップ」を見直して、吃驚しました。10年ほどの間に若者の状況は激変していて、ステップが時代に合わなくなっていたからで、私自身が古い考えを若い人に押し付けていたのか、これには罪悪感が湧きました。以前は「男女の出会いが当然」とする項がありました。2百数十名の当事者で男女交際に至った人は数えるほどでした。時代がグロ

旅立ち

全引連ニュース
 NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) 代表 池田 佳世
 第73号 発行日 平成26年4月6日 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-4-4
 Tel 03-5944-5250 FAX 03-5944-5290 http://www.khj-h.com
 Facebook : http://www.facebook.com/khj.ho / Twitter : http://twitter.com/hikomori_khj



2月9日、KHJピアサポーターの「フォローアップ研修会」が東京で開催されました。東京は8日からの大雪の影響で、交
 ○支援する、されるという上下の関係ではなく、人は人に支えられながら生きている。相互に助けあっている。まさに、お互いがお互いのことを受け止め、認め、尊重し合う共生社会を創っていく仲間なんだという考えのもと当事者と支援者・社会は、付き合っていくことが大事なのではないか。
 ○団体の運営・組織力を高めよう、活動のアーカイブや広報が鍵、各団体の役割のすみ分け、ノウハウ等資源の共有化が、大事ではないか。
 ○居場所など実践している当事者の交流会・ネットワークも

フォローアップ研修終わる

まじめで真剣な研修でピアサポーター48人誕生

通機関は大混乱の中で開催されました。講師陣も影響を受ける(遅刻1、不参加1)中で、受講生39名が参加KHJ池田代表の「宇奈月後の実地を踏まえての検討をしたい」との開会の挨拶と厚労省日野課長補佐の挨拶(別掲)がありました。
 その後、グループ分けが「活動報告」(事前提出)を基に行われ、グループ検討、全体での共有として「シェアリング」が、午前午後と2回行われました。以下、その要旨です。

中垣内班・マンネリ化克服は、ピアサポが大きな刺激に。S・定例会のマンネリ化とその対策、ピアサポ訪問の難しさ、母親と父親との関係、本人と親との隔たりなどに、どう対処するかを。
 中垣内・親の会が出来て十数年、マンネリ化で会員が減っている。そこへ今回のピアサポは大きな刺激、それを受け入れる新制度や支援が欲しい。会議の記録を残す。理事会が中心になり、情報共有で問題解決に取り組みたい。

池田：今の方のようにすぐく変わった方はいませんが、宇奈月に来るまでは二人で怒鳴りあっていたそうです。宇奈月で研修をうけ鹿児島に帰ったら子供さんがどんどん変わったとのこと。
 月例会は大きなピアサポの場所である。マンネリ化は親の意識改革を。最初の参加での見立てが大切、専門家にどうつなぐか。ひきこもりで障害者枠に繋がる人を如何に法的バックアップにつなげるか。
 牟田：例会のマンネリ化をどうするか。多くの人はダイナミックな変化を期待する。私もよく聞かれるが、魔法ないかと、それは絶対あり得ません。心の細やかな変化を通して変わっていくのです。仲間作りと信頼関係を基に家庭訪問をするプロセスが必要。ピアサポは全てが家庭訪問ではありません。前提の親や当事者同士の信頼関係を作り、情報を共有してピアサポートしていくのです。そのピアサポートを居場所に繋げて行くのです。

高橋：当事者に直接かかわる事例を中心に話した。私の印象に残った事は、親の無理解への対応、本人の期待と拒否の気持ちを抱んだ対応、夜中の1時2時の電話は訪問者や親を試している。
 高橋：「親が変われば子が変わる」の先生の話はそのと

三膳班：親子が障害を認める。1さん・ピアサポは問題を解決するのではなく本人・家族が自ら自分らしい解決をしていけるように、共有認識を持つことが大きな支えである。問題を抱える家族全体をの現状を良く理解する。訪問前にどう支援をもつこと。不登校からひきこもりになった事例が結構あり、10年20年となり、非常に問題が見えにくくなっている。教育現場の問題もあり、親は古い価値観から抜け出せない事を認識する。発達障害もいろいろあり、一言では言えない。セカンドオピニオンも必要と。
 三膳：不登校に発達障害が関わっている。最近よく「発達障害」が発達障害は非常に研究されているが、大人の発達障害はまだまだ認知されていない。で、発達障害を認めるか認めないのかです。親は障害と付く事を嫌がるが、認めることで親子も楽になります。もつと生きやすさを掴んでいった方がよい。本人に会えない時の対応は、親を支える事も大事で、親が変われば子どもも変わって行きます。親に安心感を与えることによつて家族が変わっていきます。

後半グループ検討会
 昼食後、後半のグループ検討が行われ、「困ったこと」その
 中垣内：ピアサポが精神疾患にどこまで対応できるか話し合いました。熱い心で経験をつみ教訓を得ましょう、じっくり時間を掛けましょう。(2面に続く)



おり。私の息子は彼女が出来ました。宇奈月温泉から「親が変われば子が変わる」を自分なりに聞いています。
 牟田班：ピアサポは全て家庭訪問でない、前提はまず信頼関係を築く。
 F：親の会で相談の対応は適切なアドバイスをする事。

高橋班：当事者に直接かかわる事例を中心に話した。私の印象に残った事は、親の無理解への対応、本人の期待と拒否の気持ちを抱んだ対応、夜中の1時2時の電話は訪問者や親を試している。
 高橋：「親が変われば子が変わる」の先生の話はそのと

三膳班：親子が障害を認める。1さん・ピアサポは問題を解決するのではなく本人・家族が自ら自分らしい解決をしていけるように、共有認識を持つことが大きな支えである。問題を抱える家族全体をの現状を良く理解する。訪問前にどう支援をもつこと。不登校からひきこもりになった事例が結構あり、10年20年となり、非常に問題が見えにくくなっている。教育現場の問題もあり、親は古い価値観から抜け出せない事を認識する。発達障害もいろいろあり、一言では言えない。セカンドオピニオンも必要と。
 三膳：不登校に発達障害が関わっている。最近よく「発達障害」が発達障害は非常に研究されているが、大人の発達障害はまだまだ認知されていない。で、発達障害を認めるか認めないのかです。親は障害と付く事を嫌がるが、認めることで親子も楽になります。もつと生きやすさを掴んでいった方がよい。本人に会えない時の対応は、親を支える事も大事で、親が変われば子どもも変わって行きます。親に安心感を与えることによつて家族が変わっていきます。

後半グループ検討会
 昼食後、後半のグループ検討が行われ、「困ったこと」その
 中垣内：ピアサポが精神疾患にどこまで対応できるか話し合いました。熱い心で経験をつみ教訓を得ましょう、じっくり時間を掛けましょう。(2面に続く)

東北・北海道ブロック
 KHJ北海道「はまなす」(北郷恵美子)
 ☎090-3890-7048 ☎&FAX 011-631-0981
 NPO法人若手県青少年自立支援センター「ボランの広場」(泉勝夫)
 ☎019-605-8632 FAX 019-605-8633
 KHJ青森県「アップルの会」(川村克彦)
 ☎&FAX 0178-88-5297
 秋田県「かたれ会」(長瀬田の森心療クリニック)
 ☎0185-72-4133 FAX 0185-72-4134
 NPO法人KHJ宮城県「夕オ」(武田和浩)
 FAX 0228-58-4756 ☎080-3193-6715
 NPO法人山形県「から・ころセンター」(伊藤正俊)
 ☎&FAX 0238-21-6436

社会不安障害総合情報サイト
 SADとは「Social Anxiety Disorder」の略称。社会不安障害と呼ばれる病気のことで、

SAD NET

人前で話したり、食べたり、書いたりしようとする、不安や恐怖をおぼえて赤面する、汗が出る、震えや口の渇きがおきる。本人がどんなに苦しくても周りにはなかなかその辛さが伝わらない。この症状、実は脳内物質に関する機能異常による病気の可能性が高いのです。

・おおよそのSAD(社会不安障害)をチェック可
 ・どこへ行けば治療して貰えるの?
 全国2500ヶ所のSAD対応病院が検索できます。

社会不安障害の総合情報サイト
 URL: http://www.sad-net.jp/

関東ブロック
 NPO法人桑の会リーラ(市川乙允)
 ☎&FAX 03-5944-5730
 KHJ西東京「萌の会」(井手宏)
 ☎090-8452-8810 ☎&FAX 03-5397-5372
 NPO法人KHJ埼玉けやきの会(田口ゆりえ)
 ☎&FAX 048-651-7353 ☎080-3176-6674
 NPO法人KHJ千葉県なごの花会(藤江幹子)
 ☎090-8491-0971
 KHJ神奈川「虹の会」(安田賢二) ☎0474-767-4171
 ☎080-2107-1171
 NPO法人KHJ栃木県「ベリー会」(藤藤三枝子)
 ☎090-1846-4004 FAX 028-663-5022
 グループコスモス(瓜生 武)
 ☎&FAX 03-3728-4488 ☎080-3255-4161
 KHJ静岡県「いっぶく会」(上杉博美)
 ☎090-5036-2552 ☎&FAX 054-245-0766
 NPO法人てくてく(山本洋見)
 ☎053-442-6365 ☎090-1416-6224

東海ブロック
 NPO法人東海なでしこ会(大脇正徳)
 ☎090-4195-2674 ☎&FAX 052-882-1119
 NPO法人名古屋オレンジの会(鈴木美登里)
 ☎&FAX 052-459-5116

北陸ブロック
 NPO法人KHJにいがた「秋穂の会」(三膳克弥)
 ☎090-4017-2889 ☎&FAX 025-382-6912
 KHJ北陸(事務局)
 ☎&FAX 076-252-4856
 とやま大地の会(米谷貞吉)
 ☎090-3768-1733 FAX 076-429-5886

月例会に参加して気を楽しんだり情報交換しませんか
 問合せ NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) ☎03-5944-5250

関東ブロック
 NPO法人KHJ「つばさの会大阪」(大塚 洋)
 ☎090-4308-4259 ☎072-844-2423
 KHJ情報センターふきのとう姫路(藤橋行雄)
 ☎&FAX 079-224-5259 ☎090-5046-7134

中国ブロック
 KHJ岡山さびの会(中西茂明) ☎&FAX 086-955-2857
 KHJ広島もみじの会(岡本 弘)
 ☎090-7375-6659 ☎&FAX 082-924-2922
 ☎090-7375-6659 ☎&FAX 082-924-2922
 KHJ山口県「きらら会」(上田十太)
 ☎&FAX 0837-22-5495

四国ブロック
 NPO法人KHJ香川県オーリーブの会(川井富枝)
 ☎&FAX 087-843-9877 ☎090-4332-3288
 KHJ徳島県「つばめの会」(高橋浩爾)
 ☎090-7620-4625 ☎&FAX 0883-24-0507
 KHJ高知県親の会「やいり鳥」の会(坂本航)
 ☎090-3184-8109 FAX 088-862-0740
 KHJ愛媛県こまどりの会(武田邦賢)
 ☎&FAX 089-923-3367 ☎090-7578-4214

九州・沖縄
 KHJ福岡県「楠の会」(吉村文恵)
 ☎090-8222-7403 ☎092-731-3091
 Fax 092-731-3091
 NPO法人熊本ランチ(武井敬敏)
 ☎096-322-3548 FAX 096-322-3787
 KHJみやざき「楠の会」(植田美紀子)
 ☎090-9603-8780 ☎&FAX 0985-53-2666
 KHJ鹿児島県「楠の会」(福留唯一)
 ☎090-7156-6241 ☎&FAX 0993-38-1421
 NPO法人KHJ大分県「大分ステップの会」(松本太郎)
 ☎090-1163-8582
 KHJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」(棚原 初枝)
 ☎098-930-1066 FAX 098-930-1068

(1面から続く)

当事者にいい言葉を与えましょう、5年後・10年後にその言葉が効いて就職した人がいます。ひきこもりの人はマイナス思考になります。プラス思考を伝えて下さい。最後に、日野さんから「人間力が大事ですね」との言葉を頂きました。

池田・佐潟荘での話を聞きまし。言いはなし。聴きバナシで、中垣先生が親は「今までのことは全部間違いであった」とこれを毎回、毎回読み合わせるそうです(全員笑い)。先生の本に「100のステップ」が書いてありますので参考にして下さい。



中垣内先生の閉会挨拶

みなさん大変ご苦勞様でした。ピアサポーターの誕生です。心からお祝い申し上げます。

親と当事者の「10のステップ」はテキストでも皆さんにお渡ししてありますし、インターネットで本部のサイトでも見られます。回復の基準が書いてあります。



48人の「KKHJピアサポーター」誕生 会員の皆さん、ピアサポーターは相談を待っています

2月9日雪の影響で参加出来なかった10人の方の補講も行われ、48人が認定されました。各支部の認定数は、下記のとおりです。会員皆さんの相談を待っています。
東北から・ころ(2)、関東楽の会リーラ(4)、萌の会(2)、けやきの会(1)、千葉の花会(2)、ベリー会(4)、てくてく(2)、東海なでしの会(3)、オレンジの会(2)、北陸秋桜の会(4)、北陸会(3)、太地の会(4)、中四国きびの会(1)、もみじの会(1)、きらら会(1)、オーリーブの会(3)、やいろ鳥の会(1)、九州福岡楠の会(3)、宮崎楠の会(1)、鹿児島楠の会(1)、大分ステップの会(4)

日野さんの挨拶



おはようございます。厚生労働省社会・援護局総務課でひきこもりの施策を担当しています。日野と申します。はじめに、本日の研修の位置づけ

ひきこもりピアサポーター調査協力への御礼

本調査の目的は、ひきこもりピアサポーターに求められることを明らかにすることでした。印象的だったのは、ひきこもり経験者がピアサポーターになる場合と家族がなる場合では、求められる支援が異なるということです。
調査では、家族478名、ひきこもり経験者140名、当会の支部26団体のご協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。調査報告書(4で発行)は4月以降に各支部へ郵送され、当会のホームページ上でも公表されます。(調査事業委員会)

厚労省関係主管課長会議

KKHJの連携提案(3/3)

3月3日、厚労省社会・援護局関係主管課長会議が開催され、KHJの池田代表も参加しました。
この会議で、総務課の藤原課長が、ひきこもり施策につ



いて説明しました。藤原課長は、「ひきこもり地域支援センターを中心とした自治体、福祉、保健医療、教育、就労等、既存の関係する社会資源とのネットワークの構築に加え、(中略)、現場での数多くの経験を有する当事者団体である「全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)」「地域ごとの支部を含む」といった地域の身近な者、団体、機関等とも積極的な連携、協力をお願いしたい。」と、KHJの名を入れた資料の説明して頂きました。これはKHJJの活動が評価されている事であり、今後、全国の各支部が地方自治体と連携、協力する上で大きな力になります。なお、この模様はインターネット(<https://www.kh774.com/>)で誰でも登録すれば見ることが出来ます。

2月22日ピアサポーター事業委員会開催

2月22日、第7回ピアサポーター事業委員会が東京で開催され①「ピアサポーター活動の手引き」の作成、②次年度の厚労省社会福祉推進事業ピアサポーター養成事業などが議論された。
①「ピアサポーター活動の手引き」作成では「定義」「受講資格」「認定必要要件」など詳細な検討が行われた。②次年度のピアサポーター養成事業では、本年度の経験も踏まえて、来年度は養成研修を全国5ブロック(東北、北陸、関東、東海、九州沖縄)で実施します。養成対象者は、本年度「当事者及び当事者家族」に限定したが、来年度からは、親の会での活動歴、または親の会と協働している方であれば、養成研修の受講資格が得られる様にし、これをKHJ本部事業として行うが、ブロックの代表支部、ブロック内の各支部の連携が成功の鍵となる。

と、皆様方のお力を是非お貸しいただきたい旨のお話しをさせて頂きます。この研修は、わが国が抱える様々な社会的な課題に対して先駆的な取り組みを通じて福祉の発展、改善に寄与することを目的として国費で行われる事業です。
国のひきこもりの施策は、様々な取り組みがあり、本格的には平成21年度から、ひきこもりに特化した「ひきこもり地域支援センター」の設置を進めておられます。年度末で、全国46か所が設置されています。まだ設置できていない都道府県、指定都市の実情を伺いながら、理解を求め、引き続き設置促進をしていきたいと考えています。

長期、高齢化 本人や家族にきめ細かく継続的な支援を

また、今年度から新たに「ひきこもりサポーター養成研修、派遣事業」を開始しました。この事業は、ひきこもりの長期、高齢化やそれに伴うひきこもりの状態にある本人やその家族からの多様な相談にきめ細かく、かつ、継続的に対応することを目的としています。はじめに、本日の研修の位置づけ

これまで、ひきこもり地域支援センターにおける相談支援等中心に実施してきましたが、ひきこもりの状態にある本人やその家族は、地域に暮らしておられます。これからは、地域に向き支援をすることが重要であると考えます。本事業の実施主体は、都道府県指定都市であります。事業の実施方法や研修内容に関するノウハウや情報が少ないことが実施する上での障壁とな

池田代表 日本心理研修センターで講演



3月2日、筑波大学東京キャンパスで日本臨床心理士会共催、日本心理研修センター1周年公開シンポジウムがあり、KHJ池田代表が、臨床心理士200人を前に、「ひきこもりへの心理支援の課題について講演しました。
池田代表は、「ひきこもり本人と家族は、長い間、苦しい時を過している。初めて相談に来る親は、まず、自分の気持ちを分かってもらいたい。ホッとしたいもの

東京都は14年度から「ひきこもりの家庭訪問支援始める」

3月5日、都議会本会議で日本共産党の里吉ゆみ都議会議員は、「引きこもり状態の人たちは、何となく歩み出せない、なかなか一歩を踏み出せない。また、親は自分の育て方が悪かったのではないかと悩み、誰にも相談できず抱え込んでしまう。社会にとっても損失です。長期間引きこもっている方は、自ら相談に出ていくことは非常に困難であり、自宅などに直接訪問するアウトリーチ支援を進めていくべきではないか」と質問、これに対して、河合潔青少年・治安対策本部長が「引きこもりの若者は、自ら助けを求めることが少ないため、外部の支援機関に結びつけることが困難な場合が多いことから、地域での引きこも

なっている自治体もあります。この研修は全国的なモデルでありトップランナー。このように、自治体の取り組みが様々な理由により進まない状況の中で、池田代表率いる親の会が、ひきこもりサポーター養成研修、派遣事業の先駆的モデルとなるべく、ピアサポーターに関する調査、養成、研修事業に手を挙げて頂きました。事業内容について、外部評価による厳しい評価の結果、今年度、実施すべき事業として採択されましたが、この結果は親の会が今まで培ってきた実績と実践力の賜物であると思っています。よって、この研修は単なる親の会が独自で実施している研修と言うことでなく、全国に先駆けたモデル研修であり、皆様方がトップランナーとして自治体で実施する事業の手本を示す大きな意義のある研修であります。

辛く厳しい社会的孤立を経験された皆様だからこそ出来る役割

ひきこもりの状態にある方やその家族が抱える課題や支援策が、ひとりでも多くの国民の方に理解していただき、ひきこもりの状態にある方が社会の一員として自立し、その意欲や能力が十分に活かされる社会の実現、そして一日も早く本人とその家族が、心の安心を得て、希望ある生活を送ることが出来る社会の実現に向け、是非、皆様のお力を貸して下さい。

また、ひきこもりの状態にある本人とその家族の心を解きほぐす施策は多種多様に考えられることではあると思

3月2日、筑波大学東京キャンパスで日本臨床心理士会共催、日本心理研修センター1周年公開シンポジウムがあり、KHJ池田代表が、臨床心理士200人を前に、「ひきこもりへの心理支援の課題について講演しました。
池田代表は、「ひきこもり本人と家族は、長い間、苦しい時を過している。初めて相談に来る親は、まず、自分の気持ちを分かってもらいたい。ホッとしたいもの

大分「生活困窮者自立支援法」でシンポジウム



3月15日、大分大学にて、厚生労働省・社会援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長の熊木正人氏を招いてシンポジウムが開催された。
平成27年度より「生活困窮者自立支援法」が施行される。この法の対象となる「生活困窮者」とは、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することが出来なくなるおそ

ますが、辛くそして厳しい社会的孤立を経験されてきた皆様方だからこそ出来る役割でもございます。その中で、ピアサポーターによる支援は、本人、家族にとって最短で、最適である支援の一つではないかと思っています。このため、皆様方の役割を充分理解して頂きながら、国、自治体、社会に対し、皆様方のお力をお貸し頂きたいと思っ

清々しい空気を、当事者や家族が思いっきり吸えるように

昨日、東京は、記録的な大雪でありましたが、本日は、一変し、とても天気が良く、澄んだ清々しい空気に包まれています。すがすがしい空気を感じたいにもかかわらず吸えなくて苦しんでいる方々がいらつしやいます。そう言った方々にこの清々しい空気を思いっきり吸って頂けるためにも、皆様方のお力をお貸し下さい。

不登校・ひきこもりの方も安心
教育理念『1/1の教育』
全生徒一律ではなく、1人1人の生徒を育みます。
生徒第一...だから
生徒1人1人と向き合う
「1/1の教育」で生徒の自信と意欲を養います

不登校・ひきこもりの方も安心
教育理念『1/1の教育』
全生徒一律ではなく、1人1人の生徒を育みます。
生徒第一...だから
高認・大学受験予備校
4月より第一高等学院から学校名を変更し、生まれ変わりました
TEL 0120-936-358 www.daiichigakuin-kounin.jp

高知新聞のコラム欄に高知やいろいろの鳥の会、会長の本坂さんが「ひきこもりを抱える親の立場から」のテーマで連載されています。その「親亡き後」を紹介し、親は子どもの先をいろいろと心配するものだ。ひきこもる子どもを持つ全国の親の共通する苦しみは、自分たちが死んだ後、この子はどうやって生きていくのかという事である。思い余った親が、わが子を手に掛けるという話はひきこもりの子どもを持つ親にとつて他人事ではない。

親亡き後

先の内閣府の調査では、ひきこもる人の数は70万人、全国親の会の推計では少なくとも見積もって100万人。親兄弟含めて一体どれほどの人が、この問題の渦中にいるのだから、

れのある者とされておられ、生活保護手前の人の自立を支援するための法律です。ひきこもりの場合、親亡き後はこの法律のお世話になる可能性が高く、特段の関心を寄せておかなければなりません。
すでに全国で68団体がモデル事業を実施しており、多くが地域の社会福祉協議会が事業を受託している。大分の日出町の社協はモデル事業の中でひきこもり家庭への訪問支援を実施している。
今後、全国で家族会と社協との連携が必要であると思われる。(文責・大分ステップの会、理事・松本太郎)

わが息子よ、君はどう生きるか 父親が息子に贈る人生最大の教訓、チェスターフィールド著、竹内均(東大名誉教授) 均(東大名誉教授) 訳・解説
昨年のKHJ福岡大会の来賓挨拶で厚労省の荒川英雄氏が「息子に、チェスターフィールドのわが息子よ、君はどう生きるかを渡した。」と挨拶されました。原題はLetters To His Son、著者はイギリスの政治家、外交官で約300年前に書かれたもので、今も、読んでも古さを感じません。ひきこもり家族の皆さんには是非読んで欲しいと推薦します。
◆婦人公論47(950円)「ひきこもり」を緊急特集(伊藤も